

法人（事業所） 理念	人と自然、命と命が支え合う暮らしのなかで、「自分はここにいていい」と思える関係性を育む。馬との暮らしを軸とし、障がいや困難を抱える子どもたち一人ひとりが、役割をもち、他者とつながりながら、その子らしく育っていくことを目指します。評価や競争から離れ、子どもの感覚や主体性を大切に、未来を生き抜くための「根っこ」の力を耕していきます。				
支援方針	未就学期は、感覚や身体の発達が心の成長と深く結びつく時期です。「児童デイサービス さんこま」では、馬や自然との関わりを通して、子どもが安心できる環境のなかで「やってみたい」という気持ちを育み、自発的な関わりや信頼関係の土台を育てます。体験の質を重視し、遊びと暮らしのなかで、就学につながる“根っこ”の力を育てていきます。				
営業時間	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人 支 援	健康・生活	馬や自然との暮らしの中で、一日の流れ（朝の挨拶・エサやり・掃除・昼食・休息）を繰り返し経験することで、生活のリズムと見通しを育てます。「〇〇さん、今日も馬さんにエサをあげてくれる？」という問いかけの中に、役割を持つことの喜びが自然に育まれます。また、自然の中で過ごすことで、室内とは異なる刺激（風・音・匂いなど）を五感で感じ取り、感情の安定にもつながります。			
	運動・感覚	馬の背中に揺られる「乗る」体験、草を集めて「運ぶ」体験、トランポリンや斜面の登り降りなど、子どもたちが自発的に身体を動かしたくなる環境を整えています。感覚統合の視点から、前庭覚（揺れ・回転）や固有受容覚（力の入れ方）、触覚（ブラッシングなど）などをバランスよく刺激し、身体感覚を育てる土台を整えていきます。「じっとしていられない」子どもも、まずは動くこと・感じる事が大切だと捉え、その子のからだ求める活動に沿って関わります。			
	認知・行動	「自分でやってみる → 結果が返ってくる → また試してみる」という自然なフィードバックの流れの中で、思考や行動の柔軟さを育みます。馬にこちらの意図が伝わらなかつたり、うまく道具が使えなかつたりする経験も、怒られたり失敗と捉えられたりすることなく、「どうしようかな?」「こうしたらいいかな?」と自ら工夫する土壌になります。安心できる環境のなかで、模倣・探索・失敗・試行を自由に繰り返せることが、就学後の課題理解や問題解決の力へとつながっていきます。			
	言語 コミュニ ケーション	「馬に草を持って行ってあげようか?」「（馬にブラッシングしていて）お馬さん気持ち良さそうだね」こうした生活の中の自然な会話や、馬への語りかけを通して、ことばが「使いたくなる」「伝えたい」ものとして育っていきます。ことばを使う前のジェスチャー・指さし・視線の共有なども大切に、非言語から言語へと橋渡しをするような関わりを重視します。また、自分の気持ちに名前をつけたり、「どうだった?」と聞かれたことを振り返ったりする中で、言葉による自己表現の芽を育てます。			
	人間関係 社会性	馬やスタッフ、他の子どもたちと関わるなかで、「いっしょにいる」「まねをする」「譲り合う」「待つ」など、集団生活で必要となる基本的な社会性を自然に経験していきます。無理に「一緒に遊ばせる」のではなく、同じ空間で安心して過ごすことから始め、やがて自然と関係が育っていくプロセスを大切にします。「自分と他者の違いがある」ことを知り、「それでも一緒にいられる」という経験が、就学後の人間関係の土台を形づくります。			
家族支援	活動の様子や子どもの変化を写真・音声・文章などでこまめに共有します。単なる“結果”や“できたこと”ではなく、どのような気持ちの流れの中でその姿が生まれたのかを伝えるよう心がけています。ご家庭での関わりに活かせるような視点（声のかけ方・見守り方・遊びの工夫など）も含め、子どもを中心としたチームとして、保護者と共に支援にあたります。	移行支援	就学に向けた不安に寄り添い、保護者・関係機関と協力して準備を進めます。お子さんの得意なこと、苦手なこと、安心できる関わり方などを丁寧に言語化し、次の環境にしっかりと引き継げるよう、情報共有・支援会議などを行います。		
地域支援 ・地域連携	子どもたちが地域の一員として認識されるよう、草刈り・収穫・お祭りごとなど、地域と関わる機会を設けています。「助けてもらう存在」ではなく、「一緒に活動する存在」として、未就学の時期から地域とのつながりを育みます。	職員の 質の向上	感覚統合・非構成的アプローチ・自然保育・ホースセラピーなどに関する外部研修に参加し、日々実践と結びつけながら学び合っています。スタッフ間での記録の共有・振り返り・対話を重ね、子どもの姿を軸に自らの支援を見つめ直す文化を大切にしています。		
主な行事等	決まった行事よりも、その季節・その日の天気・子どもの気持ちに合わせた柔軟な活動を大切にしています。「雪が積もったから、雪あそびしよう」「畑の野菜で料理をしよう」といった日常の出来事を丁寧に味わい、そこから自然に行事的な体験につながっていきます。				